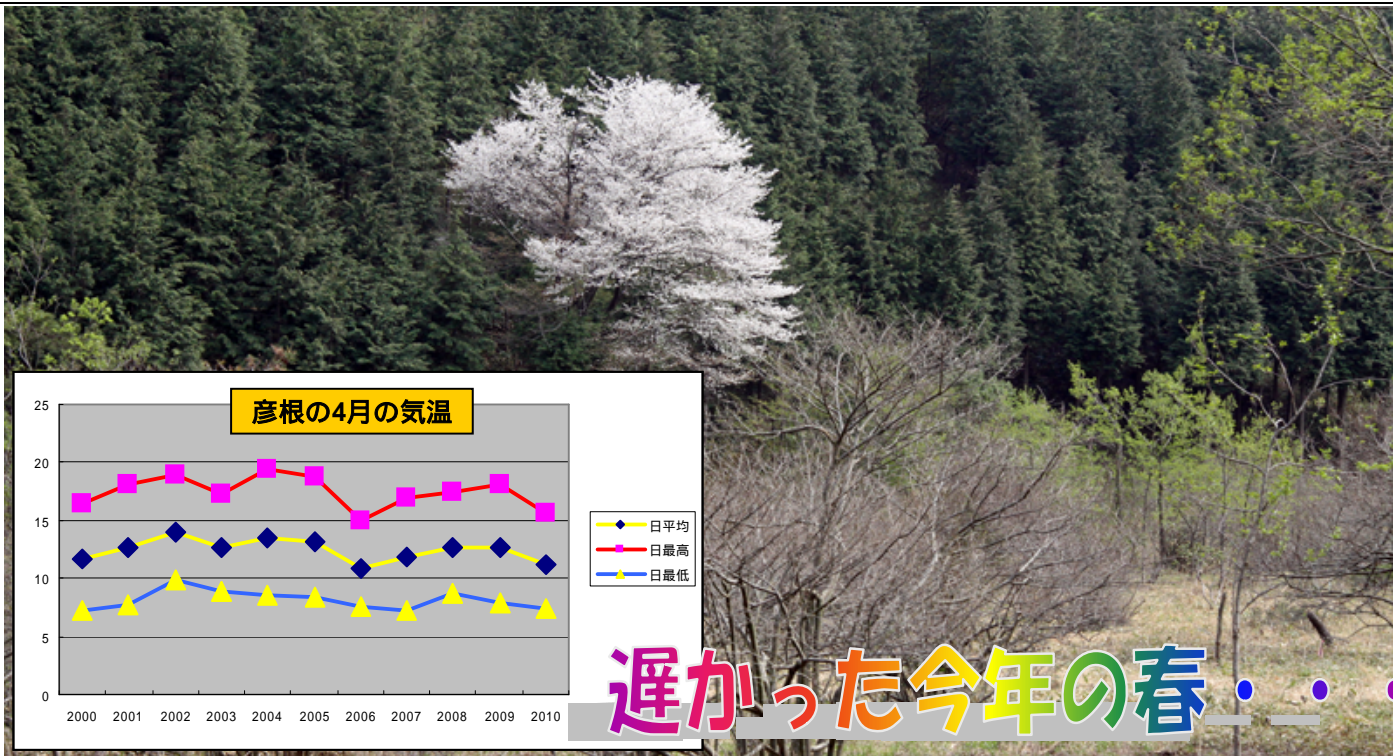


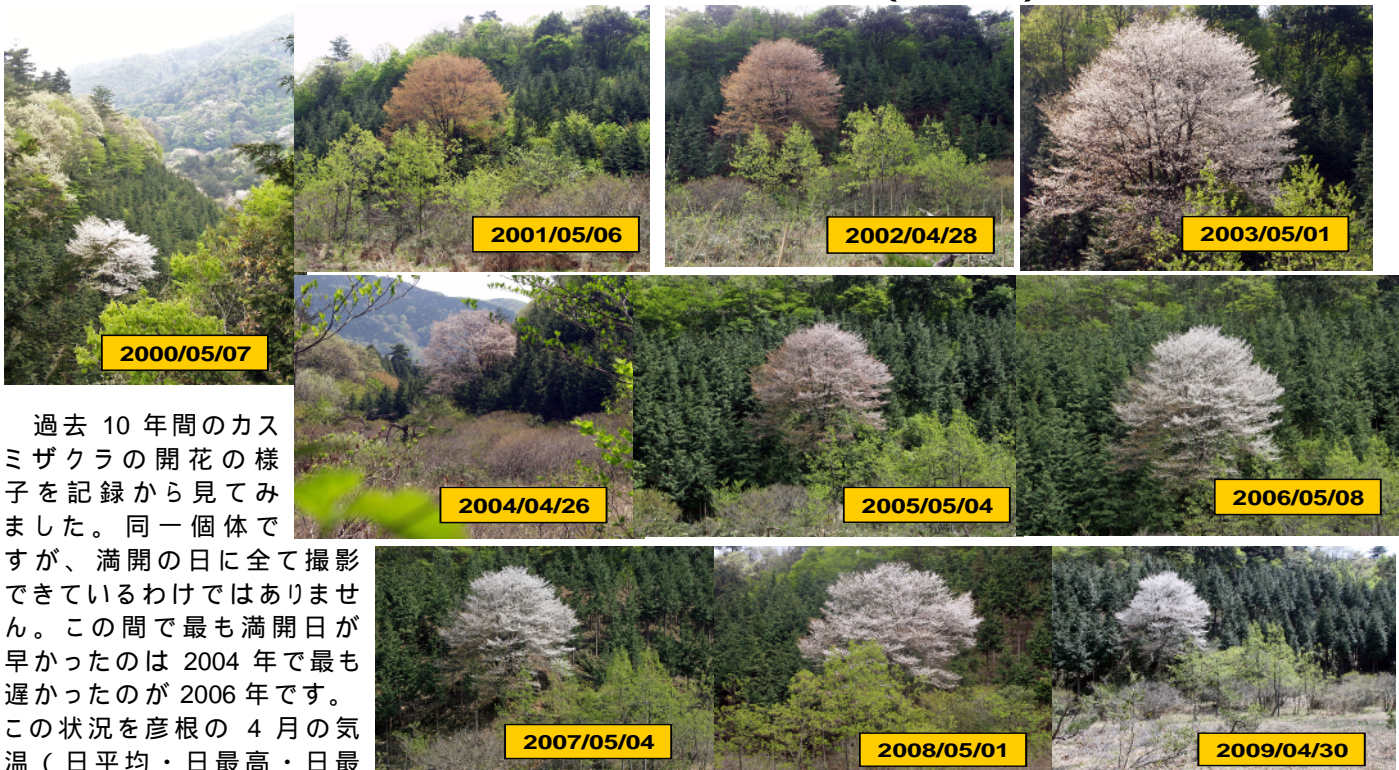
YAMAKADO NEWSLETTER

NO.126

2010/05/20

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

遅れたカスミザクラの満開 (10/05/05)



過去 10 年間のカスミザクラの開花の様子を記録から見てみました。同一個体ですが、満開の日に全て撮影できているわけではありません。この間で最も満開日が早かったのは 2004 年で最も遅かったのが 2006 年です。この状況を彦根の 4 月の気温 (日平均・日最高・日最低) と比較してみると 4 月の平均気温の高い年は、開花が早く、低い年は遅いことがわかります。当然と言えばそれまでですが、カスミザクラの開花に合わせて森の新緑のシーズンが始まります。今年の 5 月のこれまでの気温は低く、その分木々の葉の展開が遅れたため、新緑シーズンが長く楽しめました。勿論昆虫の世界にも今年の低温は影響し、「やまかど・森の楽舎」付属湿地の春の恒例シオヤトンボの一斉羽化やクロスジギンヤム

の羽化も早い年と比較すると 10 日ほど遅れました。

生物の多様性と野生動物の文化



ササユリ保護の網掛け作業(10/05/15)

今年も 5 月 15 日の「保全活動の日」に、ササユリをシカの食害から保護するための金網掛け作業を行った。この作業は今年で 3 年目である。全国各地でシカの食害が言われて久しい。「山門水源の森」での食害発生は、厳密ではないが 2000 年からリョウブの樹皮剥離が最初である。ただ 2009 年は、前年に比べると剥離が見られる頻度は少なくなった。

ササユリの食害は、2007 年に蕾を喰った跡が数地点で見られ、翌 2008 年から金網設置を始めた。しかしこの年は、開花の段階で金網を除去し、開花終了後再度金網を設置した。開花段階での食害は見られなかった。2009 年は、前年と同様の作業を行ったが、開花時に金網を取り外した場所は全て食害に遭ったためそれ以降は採種の段階まで金網を除去しな



花芽を食い尽くされたコアジサイ(10/05/13)



南部湿原南部斜面除伐(06/12/16)

かった。この 1 年でシカの世界で、ササユリの花を喰うという文化が伝搬したことになる。同様のことが、今年コアジサイで発生した。南部湿原南端から観

察コースまでの斜面は、2006 年 12 月に除伐を行い林床の日照条件が良くなり、コアジサイの大群落が形成された。昨年は斜面林床一面にコアジサイが開花し一帯を芳香で包んだ。が今年はこの花芽をことごとくシカ(シカと断定はできないが)が喰ってしまった。昨年無かった食害文化の伝搬である。既に湿原のミツガシワの食害は、1990 年初頭から拡大し、今年は湿原で 1 株の開花も観察出来なかった(「やまかど・森の楽舎」付属湿地では、分布が年々拡大しているというのに)。このように年々食害が、対象植物種の拡大・被害面積の拡大の方向に動いていることは深刻に考える必要がある。「シカ」として生物多様性という面では、確かに重要な構成員なのだが。「山門水源の森」での食害拡大は、「山門水源の森」の保全作業の拡大とともに増加するのではないかと考えられます。広域的には、人工造林地の林床が荒れ低層の植物が日々消滅し、野生動物は移動を余儀なくされている。その半面林床整備・湿原の復元等が年々進行し低層に植物(食しやすい植物)が増え、野生生物を呼び込んでいると考えることができます。この悪循環を断ち切ることは、「山門水源の森」で解決できる問題ではありません。種々の保全作業によって「種の多様性」が再生されつつあるのは事実ですが、それが食害を誘発していると考ええると複雑です。COP10 開催でデモンストレーション的に多様性を語るのではなく、そのための根本的な政策と施策が必要な段階になってしまいました。しかし、森の絶滅危惧種をはじめとする貴重種については、どのような手段を使っても死守する必要があります。何としても、私たちの世代で『絶滅』というのは避けたいのです。かくてミヤコアザミの分布域は、右の画像のような保護柵を設置することとなりました。昨秋播種したものが発芽し、今は本葉も出て順調に生育しています。



生育状況観察中の増殖サワラン(10/05/15)

もう一つの絶滅危惧種であるサワランは、2008 年に採種したものを、ラン研究家の寺田氏に育種をお願いしていたものが、発芽しその生育状況が観察できるように付属湿地に鉢植えの状態で埋め置きしました。開花までは、未だ数年を要すると思われますが、増殖という目的は果たせそうです。「生物多様性の保全」という目的達成のため



ミヤコアザミ保護柵

には、個々の生物の微細な観察から森全体の生態系の注視と多角的な観察が要求されます。